

私自身のパウロへの恩義は、計り知れないものだ。

——ペドロ・コスタ

Retrospectiva de Paulo Rocha 2023

2月24日(金)–3月4日(土)

(日曜休館/8日間)

アテネ・フランセ文化センター (御茶ノ水)

オリヴェイラとならぶ
現代ポルトガル映画の創始者

パウロ・ローシャ 監督特集2023

作品選定……ペドロ・コスタ Pedro Costa (『ヴァンダの部屋』『ウタリナ』監督)、ジョゼ・マヌエル・コスタ José Manuel Costa (シネマテッカ・ポルトゲーザ館長)

上映作品

▶ パウロ・ローシャ Paulo Rocha 監督作品 (10作品)

青い年 | Os Verdes Anos (1963)

新しい人生 | Mudar de Vida (1965)

恋の浮島 | A Ilha dos Amores (1982)

モラエスの島 | A Ilha de Moraes (1984)

待望されし者 あるいは月の山 | O Desejado ou As Montanhas da Lua (1987)

鋼の仮面／青の深淵 | Máscara de Aço contra Abismo Azul (1988)

黄金の河 | O Rio do Ouro (1998)

心の根 | A Raiz do Coração (2000)

虚栄 あるいは異界 | Vanitas ou O Outro Mundo (2004)

もしも私が泥棒だったら… | Se Eu Fosse Ladrão... Roubava (2012)

特別上映作品 (3作品)

▶ サムエル・バルボーザ Samuel Barbosa 監督作品

ローシャの円卓 | A Távola de Rocha (2021)

▶ ジョアン・ペドロ・ロドリゲス João Pedro Rodrigues、ジョアン・ルイ・ゲーラ・ダ・マタ João Rui Guerra da Mata 監督作品

慎重の寓意 | Alegoria della Prudenza (2013)

この通りはどこ？ あるいは、今ここに過去はない | Onde Fica Esta Rua? ou Sem Antes Nem Depois (2022)

初監督作『青い年』(1963) でポルトガル映画の新潮流「ノヴォ・シネマ Novo Cinema」の旗手となったパウロ・ローシャは、14年の歳月をかけて完成させた日本・ポルトガル合作映画『恋の浮島』をはじめ、2012年に歿するまでに20本弱の作品を世に送った。

2021年に続く今回の特集では、ローシャを敬愛するペドロ・コスタ監督が選んだ6本の作品に、シネマテッカ・ポルトゲーザのジョゼ・マヌエル・コスタ館長が選定した4作品を加えた10作品で、ポルトガル映画の代表的な映画作家パウロ・ローシャの足跡をたどる。

また、ジョアン・ペドロ・ロドリゲス監督とローシャ最後の愛弟子サムエル・バルボーザ監督のローシャ関連作品も特別上映。

主催……アテネ・フランセ文化センター / Athénée Française Cultural Center

共催……映画美学校 / The Film School of Tokyo

協賛……ポルトガル大使館 / Embassy of Portugal in Japan – Camões, I.P.

協力……シネマテッカ・ポルトゲーザ / Cinemateca Portuguesa | 国立映画アーカイブ / National Film Archive of Japan | 東京国際映画祭 / Tokyo International Film Festival (TIFF) | アンス・ティチュ・フランセ日本 / Institut français du Japon | コミュニティシネマセンター / Community Cinema Center | シネマトリックス / Cinematrix | 合同会社フィルム・クレセント / FILM・CRESCENT LLC | ラテンビート映画祭 / Latin Beat Film Festival | TERRATREME | FILMES FANTASMA

ATHÉNÉE FRANÇAIS
CULTURAL CENTER
アテネ・フランセ文化センター

映画美学校
THE FILM SCHOOL OF TOKYO

CAMÕES
INSTITUTO
DA COOPERAÇÃO
E DA LÍNGUA
PORTUGUESA
MINISTÉRIO DOS NEGÓCIOS ESTRANGEIROS

REPÚBLICA
PORTUGUESA
CULTURA
CINEMATHECA PORTUGUESA
MUSEU DO CINEMA, I.P.

国立映画アーカイブ

INSTITUT
FRANÇAIS
フランス・フランス・フランス
Institut français du Japon

JAPAN
COMMUNITY
CINEMA
CENTER

シネマトリックス
CINEMATRIX CO., LTD.
FILM CRESCENT

Latin Beat Film Festival
ラテンビート映画祭

TERRATREME
FILMES FANTASMA

2月24日(金)
15:00- 青い年 [85分]
17:00- 新しい人生 [93分]
19:00- 【オープニングトーク】オンラインの可能性あり
ジョゼ・マヌエル・コスタ (シネマテッカ・ポルトゲーザ館長)

2月25日(土)
13:00- 恋の浮島 [169分]
16:20- モラエスの島 [102分]
18:30- ローシャの円卓 [94分] 【特別上映】

2月27日(月)
15:00- 待望されし者 あるいは月の山 [122分]
17:30- 鋼の仮面／青の深淵 [64分]
19:00- 黄金の河 [101分]

2月28日(火)
14:20- 心の根 [118分]
16:50- 虚栄 あるいは異界 [100分]
19:00- もしも私が泥棒だったら… [87分]

3月1日(水)
14:30- 青い年 [85分]
16:30- 新しい人生 [93分]
18:30- 待望されし者 あるいは月の山 [122分]

3月2日(木)
14:10- 黄金の河 [101分]
16:20- 虚栄 あるいは異界 [100分]
18:30- 鋼の仮面／青の深淵 [64分]
【オンライントーク録画版上映】(2021年11月26日収録)
「ペドロ・コスタ、パウロ・ローシャを語る」

3月3日(金)
15:00- もしも私が泥棒だったら… [87分]
17:00- 鋼の仮面／青の深淵 [64分]
18:30- 心の根 [118分]

3月4日(土)
13:00- 虚栄 あるいは異界 [100分]
15:10- 待望されし者 あるいは月の山 [122分]
17:40- 青い年 [85分]
19:30- 慎重の寓意 [2分] この通りはどこ？ あるいは、今ここに過去はない [88分] 【特別上映】

※全作品日本語字幕

パウロ・ローシャ | Paulo Rocha

1935年ポルトガル生まれ。リスボン大学中退後、パリの高等映画学院 (IDHEC) で学ぶ。ジャン・ルノワール (『捕えられた伍長』1962)、マノエル・ド・オリヴェイラ (『春の劇』1963) の助監督を経て、初監督作『青い年』(1963) でロカルノ国際映画祭新人監督賞に輝き、ポルトガル映画の新潮流「ノヴォ・シネマ Novo Cinema」の旗手となる。第二作『新しい人生』(1965) と数本の短篇を撮った後、駐日ポルトガル大使館文化担当官として東京に赴任 (1979-1983)。その間、日本の徳島に歿したポルトガル人作家モラエス (1854-1929) の生涯を前衛的手法で描く日本・ポルトガル合作『恋の浮島』(1982) を完成。帰国後『源氏物語』の翻案『待望されし者 あるいは月の山』(1987) を撮る。他にフランスのTVシリーズ「現代の映画」でオリヴェイラと今村昌平についてのドキュメンタリーも監督している。2012年、ポルトガル郊外で逝去。遺作は自伝的なフィクション『もしも私が泥棒だったら…』(2012)。

入場料 (入替制)
【1回券】 一般1,500円/シニア・学生1,300円/アテネ・フランセ文化センター会員1,000円
【3回券】 3,000円

新型コロナウイルスの感染状況に対応して
座席数を制限することがあります。ご了承下さい。

会場 & お問合せ

アテネ・フランセ文化センター

東京都千代田区神田駿河台2-11 アテネ・フランセ4階 | JR・地下鉄 御茶ノ水・水道橋駅より徒歩7分
TEL.03-3291-4339 (13:00-20:00) <http://www.athenece.net/culturalcenter/> infor@athenece.net

ポルトガルのシネフィル、映画を学ぶ学生、映画監督を目指す者、映画監督のなかで、パウロ・ローシャに大きな借りをもたぬ者はいない。パウロより前に、1960年代においては、マノエル・ド・オリヴェイラという比類なき英雄がいたが、それに加えて心の底から称賛することができ、私たちの映画だと思えるような作品は、無声映画とドキュメンタリー映画にわずかに存在するだけだった。やがてアントニオ・レイスが登場するが、アントニオさえもパウロに負うものがある。

私たち「家族」のなかで、パウロはつねに若く、絶望の詩人であり続け、甘美でありながらも物哀しいリスボンを撮影する術を知る最初の人間だった。彼は自分自身からは遠く隔たった社会的、文化的、感情的なリアリティと向き合い、アヴァンギャルドと戯れた。そして、「失われた国に光を」* 追求めて、彼は壊れた幽霊船に乗り、日本へと航海した。

私自身のパウロへの恩義は、計り知れないものだ。少しでも彼に恩返しする機会を持ち得たのは幸運だった。その晩年に、彼の初期モノクロ作品の二本、『青い年』と『新しい人生』の輝きを取り戻す手助けをするようパウロから請われたのだ。

私の人生のなかで、忘れがたい時、もっともかけがえのない瞬間のひとつだ。

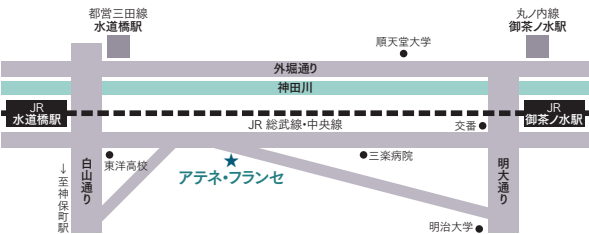
私はあなた方に約束する。パウロ・ローシャの映画を観に来ればきっと報われるであろうことを。

————— ペドロ・コスタ (2021年11月)

*『恋の浮島』第3歌に引用されるポルトガルの詩人カミロ・ベサーニャ (1867-1927) の詩の一節「私は失われた国に光を見た」を踏まえている。—— 訳注



『恋の浮島』撮影時





青い年 | Os Verdes Anos

1963年 | 85分 | DCP

監督・脚本：パウロ・ローシャ | 脚色・台詞：ヌノ・ブラガンサ | 撮影：リュック・ミロ | 出演：ルイ・ゴメス、イザベル・ルート、パウロ・レナート

パリで映画を学び帰国したパウロ・ローシャの監督第一作。田舎からリスボンへ移り住み新生活を始めた若者ジュリオの恋心と孤独を清冽に描く。ロケーション撮影、省略と飛躍が印象的な、「ノヴォ・シネマ」(新しい映画)の嚆矢となる重要作。ポルトガルを代表する女優イザベル・ルートの初々しい佇まいが魅力的。



新しい人生 | Mudar de Vida

1965年 | 93分 | DCP

監督・脚本：パウロ・ローシャ | 台詞：アントニオ・レイス | 撮影：エルソ・ロック、カルロス・マヌエル・シルヴァ | 出演：ジェラルド・デル・レイ、マリア・バローゾ、イザベル・ルート

ローシャの監督第二作。ポルトガルの漁村を舞台に、兵役から戻った主人公が挫折を経て、人生を再出発させるまでの軌跡を描く。村民たちの漁の様子、麦わらや砂集めなどの労働が、モノクロの映像で丹念に積み重ねられる。従来の劇映画のストーリーテリングとは一線を画す偏心的構成が斬新な佳作。



恋の浮島 | A Ilha dos Amores

1982年 | 169分 | DCP

監督・脚本：パウロ・ローシャ | 台詞：ルイザ・ネト・ジョルジュ、羽田澄子、渡邊守章ほか | 撮影：岡崎宏三、アカシオ・ド・アルメイダ、エルソ・ロック | 出演：ルイス・ミゲル・シントラ、クララ・ジョアナ、三田佳子

14年の歳月をかけて作られた日本・ポルトガル合作映画。日本人女性を愛し、日本に歿した作家ヴェンセスラウ・デ・モラエス(1854-1929)の波瀾の生涯を描く。ポルトガルと日本、中国の古典文学を換骨奪胎し、東洋と西洋ふたつの精神が交差する。ローシャの奔放な想像力が生み出した過剰なる問題作。



モラエスの島 | A Ilha de Moraes

1984年 | 102分 | DCP

監督：パウロ・ローシャ | 撮影：アントニオ・エスクデイロ、コウノ・ヨシヒロ、サカイ・リョウイチ | 出演：パウロ・ローシャ、瀬戸内寂聴、アルマンド・マルティンス・ジャネイラ

大作『恋の浮島』でその半生が描かれた作家モラエスの足跡を、ローシャ監督自身が辿るドキュメンタリー。ポルトガル、マカオ、神戸、徳島などモラエスゆかりの地を訪ね、人々の証言に耳を傾ける。後に『モラエス恋遍路』を著した瀬戸内寂聴も登場。『恋の浮島』と合わせ鏡のような貴重な作品。



待望されし者 あるいは月の山

O Desejado ou As Montanhas da Lua

1987年 | 122分 | DCP

監督・脚本：パウロ・ローシャ | 原作：紫式部 | 脚色・台詞：ジョルジュ・シルヴァ・メロ、マヌエル・デルセナ、アントワーズ・ラコンブレ | 撮影：岡崎宏三 | 出演：ルイス・ミゲル・シントラ、ジャック・ボナフェ、イザベル・ルート

紫式部『源氏物語』からの翻案である本作は、長年にわたった独裁政権が1974年に倒れ、政局が混乱を極めるポルトガルが舞台となる。多くの女性と恋愛を楽しむ新進気鋭の政治家ジョアンが、恩師の娘と恋に落ちる。しかし彼女はジョアンの息子とも関係を深めていく…。撮影は『恋の浮島』につづいて岡崎宏三が手掛けた。

日本初上映



鋼の仮面／青の深淵

Máscara de Aço contra Abismo Azul

1988年 | 64分 | DCP

監督・脚本：パウロ・ローシャ | 撮影：ダニエル・デル・ネグロ | 出演：フェルナンド・エイトール、イネス・デ・メディオス、ヴィトル・ノルテ

「20世紀に欧州が初めて認めたポルトガルの芸術家」と言われる前衛画家、アマデオ・デ・ソウザ・カルドーゾの生誕100年記念作。モディリアーニを初めとする芸術家たちとフランス等で交流を持ち活躍したものの、第1次世界大戦によりポルトガルに帰国。祖国では理解されないまま夭折した天才の人生を辿る。

日本初上映



黄金の河 | O Rio do Ouro

1998年 | 101分 | DCP

監督・脚本：パウロ・ローシャ | 脚色・台詞：パウロ・ローシャ、クラウディア・トマス | 撮影：エルソ・ロック | 出演：イザベル・ルート、リマ・ドゥアルチ、ジョアナ・バルシア

ポルトガル北部、ドウロ河沿いの小村を舞台に、初老の新婚夫妻、不倫相手の子を身ごもる若い女、幻視の力をもつセールスマンらの嫉妬と欲望が渦巻き、やがて惨劇へと至る。川とともにある暮らし、村祭り、随所で挿入される口承音楽など、土地に根差す文化をふんだんに織り込んだ、ローシャ後期の代表作。



心の根 | A Raiz do Coração

2000年 | 118分 | DCP

監督：パウロ・ローシャ | 脚本：ジャンヌ・ヴァルツ、パウロ・ローシャ | 撮影：エルソ・ロック | 出演：ルイス・ミゲル・シントラ、ジョアナ・バルシア、イザベル・ルート、メルヴィル・ブポー

ローシャによるルノワールとフェリーニへのオマージュ作品。カリスマ的政治家カトンの掌握が進み、偏見と暴力が横行し人々が分断されゆく不穏なリスボンの街を、ミュージカル仕立てで描く。カトン、真贋2人の聖アントニオ、ドラッグ・クイーンの4役に扮する名優ルイス・ミゲル・シントラの演技にも注目。



虚栄 あるいは異界

Vanitas ou O Outro Mundo

2004年 | 100分 | DCP

監督：パウロ・ローシャ | 脚本：レジーナ・ギマランエス | 撮影：パウロ・アブルー | 出演：イザベル・ルート、ジョアナ・バルシア、フィリペ・コショフェル

気鋭のファッションデザイナーのネラに見出され、田舎の村から出てきた美しい娘ミラ。彼女を巡り男たちの情念が蠢く。ネラが病に倒れ、その後をミラが継ごうとするが…。ゆるやかに流れるドウロ河や聖ジョアン祭など『黄金の河』と共通する背景をまじえながら、ポルトという都会に生きる男女の姿が描かれる。



もしも私が泥棒だったら… | Se Eu Fosse Ladrão... Roubava

2012年 | 87分 | DCP

監督：パウロ・ローシャ | 脚本・台詞：レジーナ・ギマランエス | 撮影：アカシオ・デ・アルメイダ | 出演：イザベル・ルート、ルイス・ミゲル・シントラ、ジャン・ドラ・マラティッチ

パウロ・ローシャの遺作。主人公に父親の人生を投影しつつ、自作の断片の引用をまじえて構成されたローシャの半自伝的ドキュメンタリー・フィクション。自らの原点を探りながら、ポルトガルのアイデンティティをも俯瞰した本作は監督の生前に完成。逝去翌年のロカルノ国際映画祭で世界初上映された。

特別上映 パウロ・ローシャ関連作品

ローシャの円卓 | A Távola de Rocha

日本初上映

2021年 | 94分 | DCP

監督：サムエル・バルボザ | 出演：イザベル・ルート、ルイス・ミゲル・シントラ、レジーナ・ギマランエス

ローシャ最後の愛弟子サムエル・バルボザが監督した師の足跡を辿るドキュメンタリー。俳優のイザベル・ルートやルイス・ミゲル・シントラ、脚本家レジーナ・ギマランエスらへのインタビューのほか、ローシャと縁のある日本の土地や人々も訪ね、その作品の本質を探る。マノエル・ド・オリヴェイラや高野悦子と親しく語らうローシャの映像も見られる。



慎重の寓意 | Allegoria della Prudenza

2013年 | 2分 | デジタル 監督：ジョアン・ベドロ・ロドリゲス

ヴェネツィア国際映画祭の第70回目を記念し、ジャンニ・マリー・ストロブやアッバス・キアロスタミなど世界の名だたる映画作家が参加した連作動画『ヴェネツィア70:リロードされた未来』の一篇。風の音とともに始まり、溝口健二とパウロ・ローシャの墓碑の映像が、かきわ手の音を契機に交錯する美しい掌篇。題名はティツィアーノの絵画から。



この通りはどこ？ あるいは、今ここに過去はない

Onde Fica Esta Rua? ou Sem Antes Nem Depois

2022年 | 88分 | DCP

監督：ジョアン・ベドロ・ロドリゲス、ジョアン・ルイ・ゲーラ・ダ・マタ | 撮影：リサ・ベルソン、ルイ・ボサス | 出演：イザベル・ルート、ジョアン・ベドロ・ロドリゲス

「我が家の窓からは『青い年』の舞台となった場所が見える」というロドリゲス監督。ジョアン・ルイ・ゲーラ・ダ・マタ監督と共に、ローシャの視点に導かれ、名作『青い年』から60年後のリスボンを同じカメラワークで撮影していくが、新型コロナウイルスの流行により中断を余儀なくされ、街からは人の姿が消えていく…。

